

戦前の日本では、「教養」に「修養」が対置されていました。旧制高校的教養主義に対して、二宮尊徳的修養主義です。吉川英治の『宮本武蔵』の読者層は修養を重んじる人々で、学歴でいえば旧制中学卒程度。二宮尊徳を尊敬するような人々は、大卒の山の手階級とは異なる社会層で、これが日本社会を中堅として支えていたわけです。修養主義者による山の手階級的な教養への違和感が、反感や憎悪にまで昂進するとプレモダンな反知性主義が生じます。

白井 いまの話聞いていて思ったのは、丸山のいった日本の軍国主義を最も支えた層というのは、日本の経済社会に置き換えてみると、どういう層なのでしょう。下級中間管理職クラスということになるのでしょうか。

笠井 下級管理職に留まらず、経営者にも修養主義者は目につきます。講談社の野間清治からナショナルの松下幸之助まで。戦後日本では、NHKの『プロジェクトX』に登場するような人々でしょうね。頑張りに頑張り抜いてようやく実現した、経済復興と高度成長の日本を誇りにしているような。実利や経済的成功と人格の陶冶や道徳性がシームレスな点で、『プロジェクトX』のヒーローたちは戦前の修養主義を継承しています。

白井 なるほど。こういったエー托スの在り方は、労使協調型の組合、民社党的な政治の在り方とばっちりハマったんですね。経営と労働は協調して、一緒に成長すればよいで

はないかと。それはテイラー主義の純粹形態です。

このシステムは、経済が右肩上がりの時は矛盾を露呈させなかったわけですが、経済成長しなくなったときに、噴出してきた問題にまったく対処できないみじめな姿をさらしている。むしろ既得権益層の自己防衛機制としての機能しか見えなくなった。

修養主義エートスについて付け加えると、このエートスは、中流社会の柱をなしていたのだらうと思います。勤勉に働き、他人から見ても恥ずかしくない常識を身につける。こういうのが真つ当な生き方である、と。このような「市民的主体」が生産性を押し上げ、高学歴化をもたらしてきたわけです。こうして世間体のようなものが保守的な規範として働くことに対して、進歩的知識人は批判的でした。それは、本当の市民的意識や市民社会の成熟ではないのだ、と。けれども、こうした修養主義が崩壊した社会とは、三浦展氏が言うところの「下流社会」であり、あるいは小泉政権以降の自民党があらさまに依拠している「B層」が多数派となる社会です。「下流」は一九世紀ヨーロッパ的な「危険な階級」ではない。一度高度消費社会を通過した新しい貧困の形でしよう。ベルナル・ステイグラーの言う「象徴の貧困」というやつです。この層が、現代の反知性主義の階級的基盤ではないでしょうか。

笠井 啓蒙主義と反知性主義の対立を含む思想の二項対立には、明治以来、様々なヴァリ